

豊臣期大坂図屏風

昨年度に、ドイツ・ケルン大学フランチスカ・エームケ教授（東洋学部日本学）が紹介した「豊臣期大坂図屏風」について、センターでは、「特別プロジェクト」と位置づけ、今年度より調査・研究を進めることとなった。

豊臣期大坂図屏風

「豊臣期大坂図屏風」は、オーストリア共和国グラーツ市のシュタイアマルク州立博物館ヨアネウムのひとつであるエッゲンベルク城博物館「日本の間」の壁面を飾っているものである。当初は、八曲一隻の屏風であったとみられるが、現在は分離され8枚のパネルとなっている。

平成18年10月に関西大学文学部招聘研究者として来学したエームケ教授が、センターにその写真を持ち込まれた。北川央研究員（大阪城天守閣研究副主幹）らが鑑定した結果、豊臣秀吉治世下の大坂城と城下町の景観を描いた、わが国でも数少ない貴重な屏風絵であることが判明した。

学術共同研究協定の締結

センターでは、「豊臣期大坂図屏風」の調査・研究を進めることとし、州立博物館ヨアネウム（平成19年6月5日）および大阪城天守閣（同7月2日）との間で、学術共同研究の協定を締結した。



協定書に署名するパケシュ州立博物館ヨアネウム総監督と高橋センター長（オーストリアにて）

協定においては、研究期間を平成21年までの三年間に、研究調査、シンポジウム等の開催、資料の相互利用、研究成果の交換などを行うとしている。

屏風研究会の開催

学術共同研究協定にもとづく国際シンポジウムにむけて、屏風に関する研究会を開催した。内容は以下の通りである。

第1回：平成19年7月18日

藪田 貫（総括プロジェクトリーダー）

「グラーツ視察報告 「豊臣期大坂図屏風」について」

高橋隆博（センター長）

「豊臣期大坂図屏風」

第2回：平成19年9月14日

内田吉哉（リサーチアシスタント）

「「豊臣期大坂図屏風」に描かれた事物と景観」

長谷洋一（研究員）

「「豊臣期大坂図屏風」に描かれた堺」

黒田一充（研究員）

「「豊臣期大坂図屏風」にみる住吉祭の行列」

屏風研究会は、今後も継続して行う。

国際シンポジウムの開催

学術共同研究協定にもとづいて、日本とヨーロッパの研究者による屏風をめぐる国際シンポジウムを開催した。

シンポジウムは、二日間にわたって行われ、初日は、日本とヨーロッパとの交流史に焦点を当て、屏風がエッゲンベルク城に所蔵された背景について議論し、二日目は、屏風に描かれた内容を読み解くことをテーマとして、景観年代や制作年代などが議論された。なお、二日目のシンポジウムは、サントリ文化財団からの研究助成を得て、朝日新聞社との共催で「朝日・大学パートナーズシンポジウム」として開催された。各日の内容は以下の通りである。

国際シンポジウム

「新発見「豊臣期大坂図屏風」の魅力

—オーストリア・グラーツの古城と日本—
：平成19年 9月28日
：関西大学尚文館AV大ホール
：参加者数 230名

基調講演

ペーター・パケシュ氏（州立博物館ヨアネウム
総監督）

バーバラ・カイザー氏（エッゲンベルク城博物
館主任学芸員）

フランティスカ・エームケ氏（ケルン大学教授）

パネリスト

朝治啓三氏（関西大学教授）

長谷洋一（研究員）

黒田一充（研究員）

通訳：杉谷眞佐子氏（関西大学教授）

コーディネーター：

藪田 貫（総括プロジェクトリーダー）



シンポジウムの様子

朝日・大学パートナーズシンポジウム
「新発見「豊臣期大坂図屏風」を読む」

：平成19年 9月29日

：大阪産業創造館イベントホール

：参加者数 320名

特別報告

ペーター・パケシュ氏

基調講演

フランティスカ・エームケ氏

パネリスト

バーバラ・カイザー氏

狩野博幸氏（同志社大学教授）

北川 央（研究員・大阪城天守閣研究副主幹）

通訳：杉谷眞佐子氏（関西大学教授）

コーディネーター：高橋隆博（センター長）

屏風についての関連行事

・第6回NOCHSレクチャーシリーズ

センター主催の第6回NOCHSレクチャーシリーズでは、「豊臣期大坂図屏風」の調査・研究に連動させ、考古学的な知見から屏風に描かれた景観について講演を行った。内容は以下の通りである。

第6回NOCHSレクチャーシリーズ「豊臣期大坂城を掘る」

：平成20年 1月16日

松尾信裕氏（大阪城天守閣館長）

「豊臣期大坂の景観」

杉本厚典氏（(財)大阪市文化財協会学芸員）

「大坂城三ノ丸北辺の発掘調査から」

・関西大学日本・EU研究センター第1回Japan Weekでのフォーラム

関西大学の協定校であるベルギーのルーヴェン・カトリック大学に設置された「関西大学日本・EU研究センター」の開所記念として、同校で開催された第1回Japan Weekにおいて、「豊臣期大坂図屏風」に関するフォーラムを行った。内容は以下の通りである。

：平成20年 3月11日

：ルーヴェン・カトリック大学文学部講堂

藪田 貫（総括プロジェクトリーダー）

「「豊臣期大坂図屏風」とヨーロッパ」

内田吉哉（リサーチアシスタント）



フォーラムの様子

「豊臣期大坂図屏風」を読む」

コメント：

ウィリー・ヴァンデヴァーレ氏(ルーヴェン・カトリック大学文学部日本学主任教授)

フォーラムのほか、開所式および能楽上演の際には、会場に八曲一隻の屏風に復元した「豊臣期大坂図屏風」を展示した。

・ 関西大学第1学舎第1号館に復元陶板を展示

平成20年3月に竣工した第1学舎第1号館の千里ホール前に陶板製の「豊臣期大坂図屏風」が設置された。陶板製屏風は、実物の1.5倍の大きさに復元されている。学校法人関西大学が、ウィーン在住の美術写真家エリック・レッシング氏撮影の写真をもとに、大塚オーミ陶業(株)に製作を依頼したものである。センターでは、復元陶板の監修と解説板およびリーフレットの編集・作成を行った。



第1学舎第1号館の復元陶板